

年 報

平成30年度

平成31年5月

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター

序

山形県埋蔵文化財センターは、平成5年に財団法人として創設以来、また平成24年からは公益財団法人として、関係諸機関の御支援・御協力をいただきながら取り組みを進めてまいりました。本年度における当センターの事業については、計画した事業のすべてについて円滑に実施することができました。

その概要について申し上げますと、はじめに、調査事業においては、3遺跡3件の発掘調査と、延べ13遺跡の報告書作成のための整理作業を実施し、5冊の発掘調査報告書を刊行いたしました。

本県における近年の発掘調査の傾向は、県公共事業の減少が引き続き見られ、国による新直轄事業の高速交通網整備に伴う事業もピークを過ぎたことから、現在進められつつある高速道路の県境部分の整備やこれからの県の公共事業等の事業量を的確に把握しつつ、調査体制の整備に努めていかなければなりません。今後とも、責任ある発掘調査を基本とした調査研究に取り組んでまいります。

次に、普及啓発事業につきましては、諸事情により、一昨年度来大幅な事業縮小を余儀なくされましたが、例年好評をいただいております「埋蔵文化財センター参観デー『埋文まつり』」を、『考古学&遺跡発掘調査のお仕事参観日』と改め、規模を縮小してではありますが実施することができました。その他、ホームページによる情報発信や調査遺跡における発掘調査説明会の開催、考古学講座の開催のほか、ホームページ上での公開ではありましたが、広報誌『埋文やまがた』の発行などを通して、埋蔵文化財の調査研究の成果を県民の皆さまにお知らせしてまいりました。また、職員を派遣しての講演や体験活動、調査研究発表等は、従来通り実施してまいりました。今後とも埋蔵文化財保護の重要性の周知や、埋蔵文化財を通して古代の人との心の交流の場を県民の皆さんに提供するという基本姿勢を以て、普及啓発事業を推進してまいります。

山形県埋蔵文化財センターでは、これからも「公益」という言葉の重みを職員一人ひとりが胸に刻み、次世代を担う子供達に地域の伝統文化の大切さを伝えるため、あるいは誇りと自信の持てる地域づくりの一助とするため、さまざまな機会を活用して、県民共有の文化遺産としての価値ある埋蔵文化財を後世に伝えて行けるよう、職員一同、一層研鑽を重ねていく所存であります。

平成31年3月31日

公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
理事長 廣瀬 渉

目 次

I. 管理運営概要

1. 沿 革	3
2. 組 織	
(1) 役員及び評議員	3
(2) 職制及び人員	4
(3) 組 織	4
(4) 職 員	5
3. 施 設	6

II. 事業概要

1. 調査業務	7
(1) 調査遺跡一覧	8
(2) 調査遺跡の概要	
藤島城跡（第7次）	10
川前2遺跡（第5次）	12
中野目Ⅱ遺跡（第2次）	16
2. 普及・啓発・研究等業務	
(1) 研修等	
全国埋蔵文化財法人連絡協議会事業への派遣	22
(2) 普及啓発	
①センター公開事業	22
②考古学講座	23
③来所者	24
④調査説明会	25
⑤職員派遣等	26
⑥資料貸出	29
⑦資料掲載許可	31
⑧研究紀要	32
⑨出版物	32
⑩ホームページ	32
(3) 情報処理	
収蔵図書データベース	32

I 管理運営概要

1. 沿革

山形県には、土地に埋蔵された埋蔵文化財や史跡、有形文化財、民俗文化財などが数多く残されています。これらの文化財は、長い歴史の中で生まれ、育まれ、そして今日まで守り伝えられてきた貴重な県民の文化遺産であり、これを保護・活用し、次世代に確実に継承していくことが大切です。

山形県埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の保護と県土の開発を両立させて調和を図るため、平成5年4月に山形県の出資によって「財団法人」として設立され、平成24年度には「公益財団法人」に移行しました。当センターでは、埋蔵文化財の調査研究を通じて、県民の文化生活の向上と地域文化の振興に寄与することを目的として、

1. 県内遺跡等埋蔵文化財の調査研究
2. 埋蔵文化財の発掘調査
3. 埋蔵文化財の活用と保護思想の普及

の三つを基本とした各種事業を推進しております。

平成27年度に新たに策定された第6次山形県教育振興計画では、『人間力にあふれ、山形の未来をひらく人づくり』を基本目標に掲げ、『「いのち」をつなぐ人』、『学び続ける人』、『地域とつながる人』の三つを目指す人間像としています。埋蔵文化財については、『主要施策15 山形の宝の保存活用・継承』の中で、その保護と活用、ならびに（公財）山形県埋蔵文化財センターとの連携の強化が謳われています。

近年、当センターでは、埋蔵文化財の教育的価値を認識してもらう視点に立って、「発掘調査速報会」や「ホームページによる情報提供」「遺跡(発掘現場)見学や研修の受け入れ」「考古学講座」の実施などの普及啓発活動についても力を注いでおります。

2. 組織

(1) 役員及び評議員

役員

理事長	廣瀬 渉	山形県教育委員会教育長
専務理事	齋藤 稔	財団常勤役員
理事	渋谷 孝雄	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 館長
理事	矢口 俊雄	公益財団法人山形県生涯学習文化財団 専務理事
理事	渡邊 弘明	公益社団法人山形県私立学校総連合会 常務理事
理事	大場 秀樹	山形県教育庁文化財・生涯学習課 課長
監事	柳野 哲郎	税理士有資格者
監事	奥山 賢	山形県教育庁総務課 課長

評議員	小野 忍	酒田市文化財保護推進員
評議員	角屋由美子	公益財団法人米沢上杉文化振興財団 学芸主査
評議員	佐藤 庄一	山形考古学会 会長
評議員	大類 誠	尾花沢市文化財保護審議員
評議員	草苅 信博	特別法人山形県住宅供給公社 専務理事
評議員	早坂 浩也	山形県県土整備部道路整備課 課長
評議員	保科 秀隆	山形県農林水産部農村整備課 課長

(2) 職制及び人員

事務局長	1名
課長	1名
室長	(1名)
調整主幹	1名
課長補佐	(1名)
調査研究専門員	3名
専門調査研究員	5名
主査	2名
主任調査研究員	4名
事務員	4名
調査員	9名
計	30名

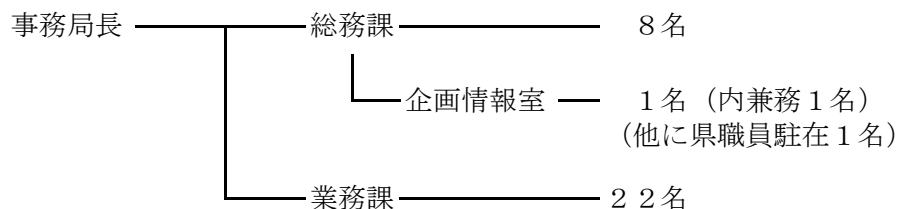
(3) 組織

役員（理事会）

理事長（非常勤）——専務理事（常勤）



職員（事務局）



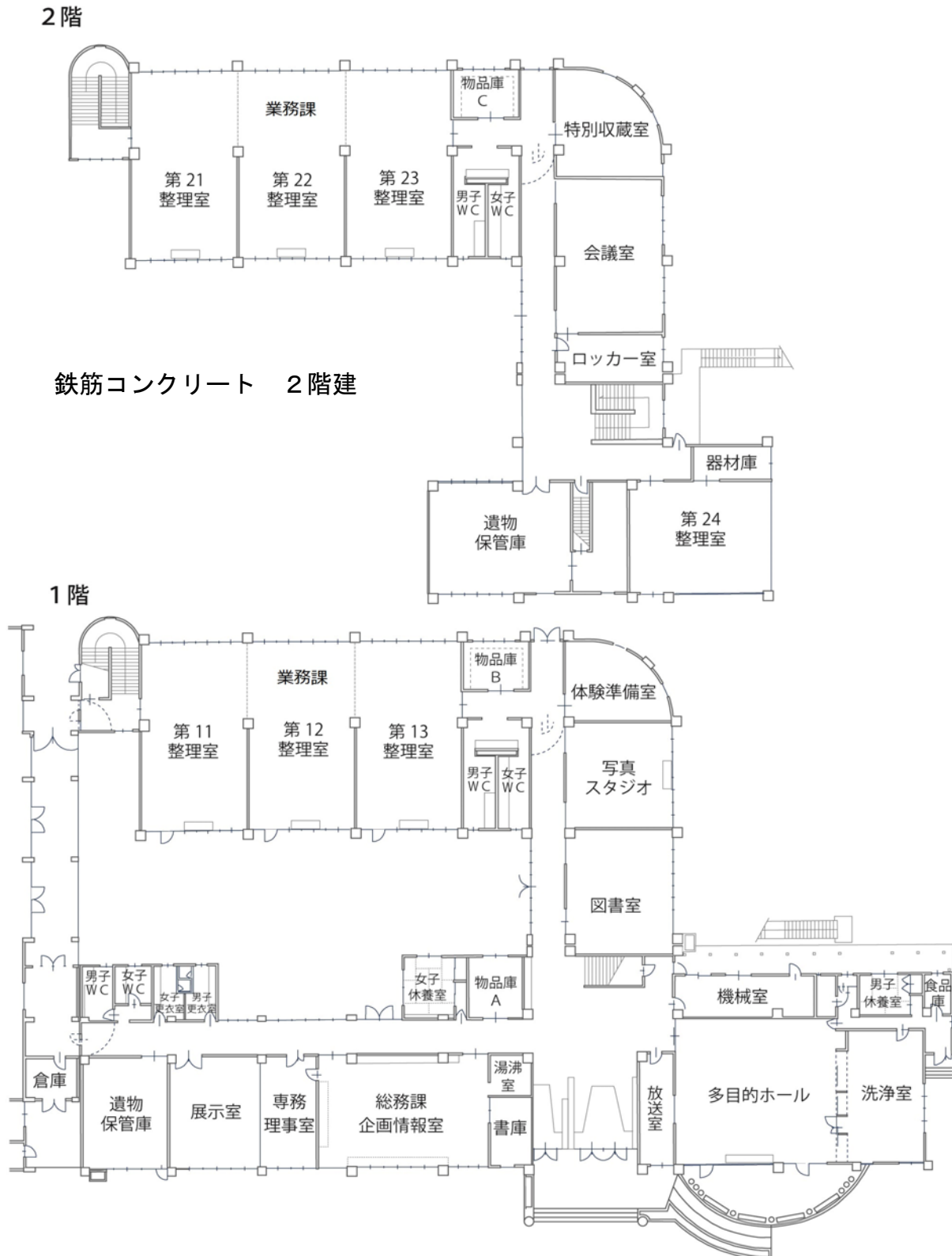
(4) 職 員

課 名	職 名	氏 名	所 属
総 務 課	事務局長 (兼)総務課長、企画情報室長	黒坂 雅人	財団職員
	企画調整主査	原田 英明	財団職員
	総務主査	高桑 弘美	財団職員
	課付主任調査研究員	渡辺 和行	財団職員(震災復興派遣)
	事務員	林 浩子	
	事務員	片平 玲子	
	事務員	板垣美智子	
	事務員	川上ひろ子	
企画情報室	駐在(埋蔵文化財調査研究員)	(向田 明夫)	(教育庁 文化財・生涯学習課)
業 務 課	課 長	伊藤 邦弘	財団職員
	調整主幹(兼)課長補佐	須賀井新人	財団職員
	調査研究専門員	齊藤 主税	財団職員
	調査研究専門員	氏家 信行	財団職員
	調査研究専門員	小林 圭一	財団職員
	専門調査研究員	植松 暁彦	財団職員
	専門調査研究員	齋藤 健	財団職員
	専門調査研究員	菅原 哲文	財団職員
	専門調査研究員	高桑 登	財団職員
	専門調査研究員	水戸部秀樹	財団職員
	主任調査研究員	大場 正善	財団職員
	主任調査研究員	草野 潤平	財団職員
	主任調査研究員	天本 昌希	財団職員
	調査員	阿部 明彦	
	調査員	安達 将行	
	調査員	吉田 満	
	調査員	長澤 友明	
	調査員	色摩 優吾	
	調査員	加藤津奈樹	
	調査員	廣瀬 美紀	
調査員	白戸このみ		
調査員	荒川 成美	(4月10日退職)	
調査員	板橋 龍		

3. 施設

公益財団法人山形県埋蔵文化財センターは、平成24年11月末まで、山形県上山市弁天二丁目15番1号にて業務を行ってきたが、施設の老朽化と防災上の問題のため、同年12月1日より、山形県上山市中山字壁屋敷5608番地に移転した。

現在当所の施設は、以下の通りとなる。



II 事業概要

1. 調査業務

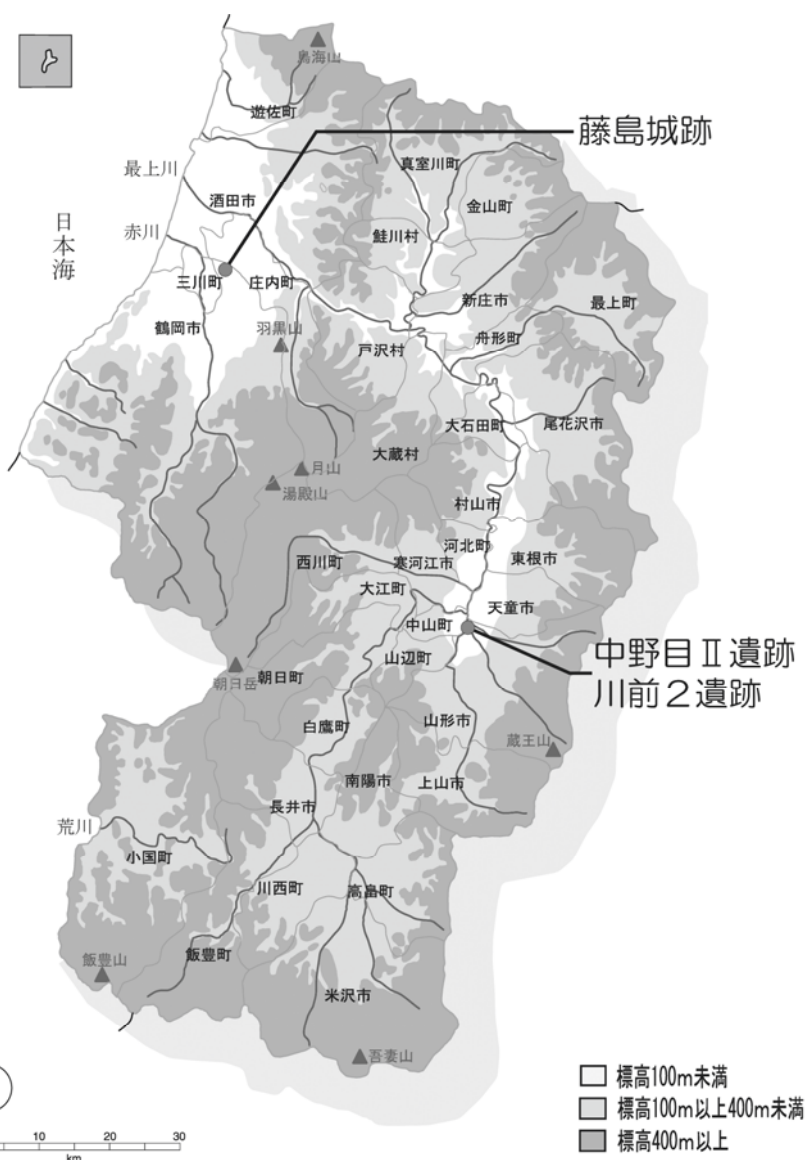
平成30年度は、国土交通省および山形県から委託を受け、道路建設と河川改修、庄内農高ライスセンター改築に先だつての発掘調査と整理作業を実施しました。

発掘調査は3遺跡3件について行い、総調査面積は6,038㎡になります。出土品は、土器等37箱が出土文化財の認定を受けました。

報告書作成のための整理作業は延べ13遺跡について実施し、そのうち5遺跡5冊の発掘調査報告書を刊行しました。

平成30年度 発掘調査遺跡

- 1 ふじしま
藤島城跡(第7次)
- 2 かわまえ
川前2遺跡(第5次)
- 3 なかのめ
中野目Ⅱ遺跡(第2次)



※本書中の「調査遺跡の概要」の記述内容は概要の報告であり、発掘調査報告書の刊行をもって本報告となります。

(1) 調査遺跡一覧

NO.	遺跡名	所在地	主な時代	遺跡の種別	調査期間
1	藤島城跡 (第7次)	鶴岡市	中世	城館跡	5月28日～7月6日
2	川前2遺跡 (第5次)	山形市	古墳・奈良・平安	集落跡	6月6日～11月2日
3	中野目Ⅱ遺跡 (第2次)	山形市	古墳 ・平安・近世	集落跡	5月21日～11月5日
4	上竹野遺跡 (第1・2次)	大蔵村	縄文・弥生	集落跡	
5	山形城三の丸跡 (第15・17・19次)	山形市	奈良・平安 中世・近世	集落跡	
6	八反遺跡 (第1～3次)	東根市	縄文～中世	集落跡 墓地跡	
7	清水遺跡 (第1～7次)	村山市	縄文 ・奈良・平安・中世	集落跡	
8	羽黒神社西遺跡 (第1・2次)	村山市	縄文・平安	集落跡	
9	山形城三の丸跡 (第9・11・13・14・16・18・20次)	山形市	奈良・平安 中世・近世	集落跡 城館跡	
10	八幡西遺跡 (第2次)	川西町	平安・近世	集落跡	
11	八幡一遺跡 (第2次)	川西町	奈良 ・平安・中世・近世	集落跡	
12	野田遺跡	遊佐町	奈良・平安	集落跡	
13	下中瀬遺跡	遊佐町	奈良 ・平安・近世	集落跡	

調査面積 ：平方m	文化財認 定数：箱	起因事業<委託者>	業務内容			調査経費 ：円
			発掘	整理	報告書	
238	4	庄内農業高等学校ライスセンター改築〈教育庁〉	○	○	○	17,625,600
2,000	10	須川河川改修〈国土交通省〉	○	○	—	64,715,760
3,800	23	須川河川改修〈国土交通省〉	○	○	—	58,418,280
		一般国道458号道路改良〈県土整備部〉	—	○	○	43,248,600
		都市計画道路事業3・2・5号旅籠町八日町線〈県土整備部〉	—	○	○	3,758,400
		東北中央道(東根～尾花沢)〈国土交通省〉	—	○	○	26,565,840
		東北中央道(東根～尾花沢)〈国土交通省〉	—	○	—	32,903,280
		東北中央道(東根～尾花沢)〈国土交通省〉	—	○	—	43,568,350
		一般国道112号霞城改良〈国土交通省〉	—	○	—	35,159,400
		一般国道113号梨郷道路〈国土交通省〉	—	○	—	34,922,880
		一般国道113号梨郷道路〈国土交通省〉	—	○	○	21,120,480
		日本海沿岸東北自動車道(遊佐～象潟)〈国土交通省〉	—	○	—	44,162,280
		日本海沿岸東北自動車道(酒田みなと～遊佐)〈国土交通省〉	—	○	—	
6,038	37					426,169,150

(2) 調査遺跡の概要

藤島城跡 (第7次)

遺跡番号	423-034
調査次数	第7次
所在地	山形県鶴岡市藤島字古楯跡 221
北緯・東経	38度46分11秒・139度54分01秒
調査委託者	山形県教育庁総務課
起因事業	山形県立庄内農業高等学校ライスセンター改築事業
調査面積	237.6 m ²
受託期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日
現地調査	平成30年5月28日～7月6日
調査担当者	齋藤健 (現場責任者)・吉田満
調査協力	山形県立庄内農業高等学校、鶴岡市教育委員会、鶴岡市、庄内教育事務所 公益財団法人藤島文化スポーツ事業団
遺跡種別	城館跡
時代	中世
遺構	土坑・柱穴・井戸跡
遺物	陶磁器・石製品・金属器 (文化財認定箱数：4箱)



遺跡位置図 (S=1:50,000)

調査の概要

藤島城は、14世紀南北朝時代にさかのぼり、出羽における南朝方の主要拠点であったと言われているが、これまでの調査でその時期に遡る遺構や遺物は確認されていない。14世紀中頃から土佐林氏^{とさばやし}が城主となり、大宝寺^{たいほうじ} (武藤) 氏と対立と服従を繰り返す。元亀2年^{げんき} (1571年) に土佐林禅棟^{ぜんとう}が大宝寺義氏^{よしうじ}に滅ぼされた後、大宝寺氏、最上氏、上杉氏と城主が目まぐるしく入れ替わる。天正18年^{てんしょう} (1590年) には、庄内地方で上杉氏が

実施した太閤検地に反対する国人一揆^{こくじんいっき}が発生し、藤島城はその主戦場となった。慶長5年 (1600年) の関ヶ原の戦いにもなう慶長出羽合戦により庄内地方は再び最上領となり、新関因幡守久正^{けいちよう}が藤島城主となる。しかし、元和8年 (1622年) に最上氏が御家騒動で改易されて酒井氏が領主となると藤島城は廃城となる。明治34年 (1901年) に山形県立庄内農業学校 (現: 山形県立庄内農業高等学校) が建設されて現在に至る。

藤島城跡は今回で7回目の発掘調査である。最初の調査は藤島川の河川改修に伴う発掘調査だが、それ以降は山形県立庄内農業高等学校の校舎や学校施設の建設、改築に伴う発掘調査で、15～16世紀を中心とした内堀の跡や井戸跡、建物跡など多くの遺構と遺物が確認されている。

今回の発掘調査も学校施設である老朽化したライスセンターを改築するために237.6 m²を対象に実施された。

遺構と遺物

調査区が限られた面積であるため、遺構・遺物とも決して多いとは言えない量であった。

遺構は、井戸と思われる大型の土坑2つと柱穴を検出した。井戸跡は、掘り返して井戸枠を撤去した後に埋

め戻したと見られる。柱穴には、深くしっかりとした建物のものであろうと思われるものもあるが、建物として組み合わせることはできなかった。

遺物については、小片がほとんどで時期を推測するのも困難なものばかりであった。陶器ではすずしき系、瓷器系の甕の破片、瀬戸美濃の灰釉皿の破片がみられた。磁器は中国産の染付であった。他に宋銭が出土している。遺物の年代は概ね16世紀とみられるが、一部の染付は15世紀に遡ると考えられる。

まとめ

今回の調査は237.6㎡を対象としたもので、成果としては限定的である。しかし、従来の調査成果と同様に、藤島城全盛期の15～16世紀に及ぶ遺構の広がりや遺物を確認することができた。

遺跡が学校に所在する関係上、限定された面積の調査区が散在してしまうが、少しずつ着実に藤島城の姿が明らかになってきている。

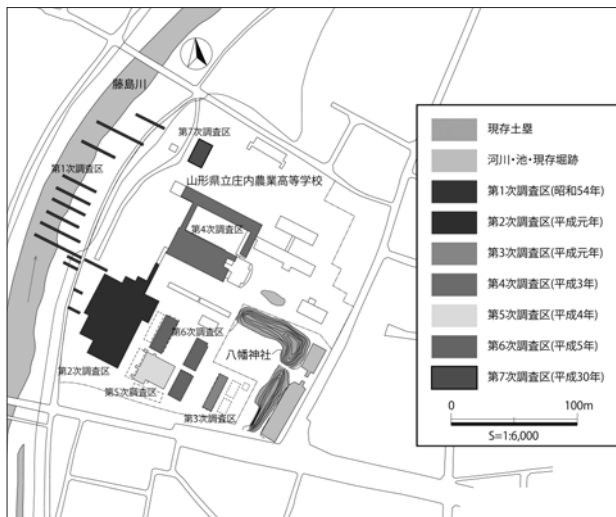


図1 調査区概要図



写真1 調査区全景(北西から)

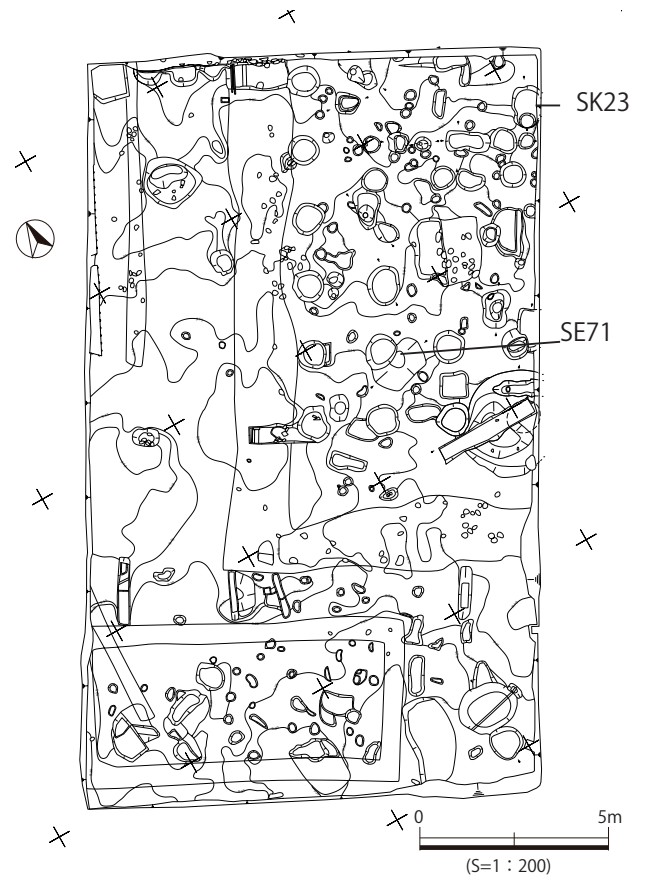


図2 遺構配置図



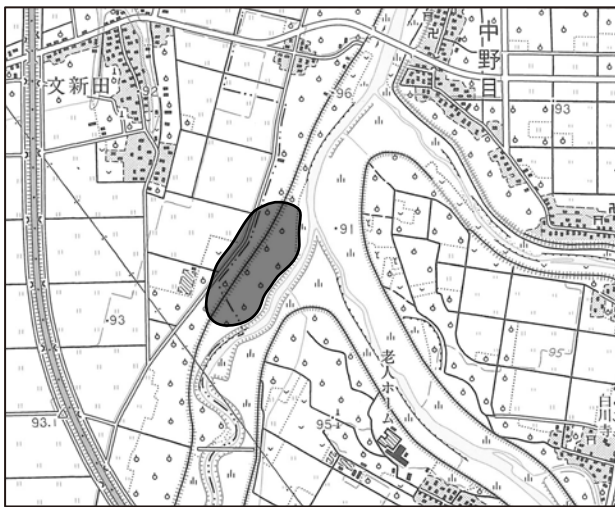
写真2 SE71 井戸跡土層断面



写真3 SK23 柱穴土層断面

かわまえ 川前2遺跡（第5次）

遺跡番号	201-244
調査次数	第5次
所在地	山形県山形市大字中野目字赤坂ほか
北緯・東経	38度19分38秒・140度18分20秒
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起回事業	須川河川改修事業
調査面積	2000㎡
受託期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日
現地調査	平成30年6月6日～11月2日
調査担当者	齊藤主税（現場責任者）・白戸このみ・加藤津奈樹
調査協力	山形市教育委員会・中山町・中山町教育委員会・山形県村山教育事務所
遺跡種別	集落跡
時代	古墳時代・奈良時代・平安時代
遺構	竪穴建物跡・溝跡・土坑・柱穴
遺物	弥生土器・土師器・須恵器・土製品・石製品（文化財認定箱数：10箱）



遺跡位置図（1：25,000）

調査の概要

川前2遺跡は、山形市と中山町との市境で、奥羽山系の蔵王連峰に源を発する須川左岸の自然堤防上の微高地に位置する。遺跡周辺には中野目Ⅱ遺跡や上敷免遺跡、達磨寺遺跡、三軒屋物見台遺跡など古墳時代や奈良・平安時代の遺跡が多く分布している。調査は須川河川改修事業に伴い、過去4回にわたり実施されており、平成14・15年の調査では奈良・平安時代の集落が検出され、平成19・20年の調査ではその下層に古墳時代の生活面が検出されたが、今回はその西側の調査を実施した。

遺構と遺物

今回の調査で検出された遺構は、竪穴建物跡、溝跡、土坑、柱穴、性格不明遺構である。竪穴建物跡は調査区中央から北側に集中しており、古墳時代前期が1棟、奈良・平安時代が5棟検出されている。地床炉を伴う竪穴建物跡（ST12）を検出したが、いずれもカマドは確認できなかった。調査区南側で検出された溝跡（SD1）は、調査区外に伸びると想定されるためその全容ははっきりとしないものの、約6.8×6mの方形を呈するものと思われ、その形状から古墳時代前期の方形周溝墓の可能性があると考えられる。しかし主体部が確認できなかったことから、竪穴建物跡をめぐる周溝とも考えられるが竪穴建物跡を確認できず、今後の検討が必要である。土坑は廃棄土坑（SK45）と思われるものを1基確認した。その他の土坑は性格、時期ともに判然としないものが多いが、焼土を廃棄したと思われる土坑（SK49）や浅く掘り込み、そこで火を焚いたのか僅かに焼成が認められる土坑（SK47）を確認した。

出土遺物は古墳時代前期と古代を主とし、前者が大半を占める。土師器破片が多く、遺跡の総量としては多くない。前述した方形の溝状遺構からは東海の影響を思わせる高坏や加飾壺の破片、砥石が出土している。また、その外側に位置するL字型の溝跡（SD2）からは北陸の影

響を受けたと思われる装飾器台が出土しているが、装飾器台自体山形県内において出土例は少なく、今回出土した装飾器台についても坏部に刻目の入る他に類例の少ないものである。これらの遺構の南側に隣接する土坑(SK45)からは、廃棄されたとみられる土師器の甕や器台等が多量に出土しており、いずれも古墳時代前期の所産である。他に調査区北側より弥生時代中期後半の甕の破片、奈良・平安時代では横瓶よこべいや調査区中央の竪穴建物跡(ST4)から「鬼」と墨書された須恵器坏、調査区北側の竪穴建物跡(ST12)からは石製の紡錘車が出土している。

まとめ

これまでの第1～4次調査と今回の5次調査では、洪水堆積層が認められ、洪水の危険にさらされていた地域にも関わらず、水運の利を得られるためか、断続的ではあるものの古墳時代から奈良・平安時代の長期にわたって営まれた集落跡であることが確認されている。今回の調査では東西5m南北200mという限られた調査範囲ではあるが、西側にその集落の広がりを確認し、本遺跡では初めて確認された方形周溝墓と考えられる遺構により新たな集落の様相が見えてきた。



写真1 調査区全景（南から）



写真2 ST5 完掘状況（東から）



写真3 SK45 遺物出土状況（東から）



写真4 SD1・SD2 溝跡 (西から)



写真5 SD1 高坏出土状況 (南から)



写真6 SD2 装飾器台出土状況 (北から)



写真7 弥生土器出土状況 (西から)



写真8 弥生土器

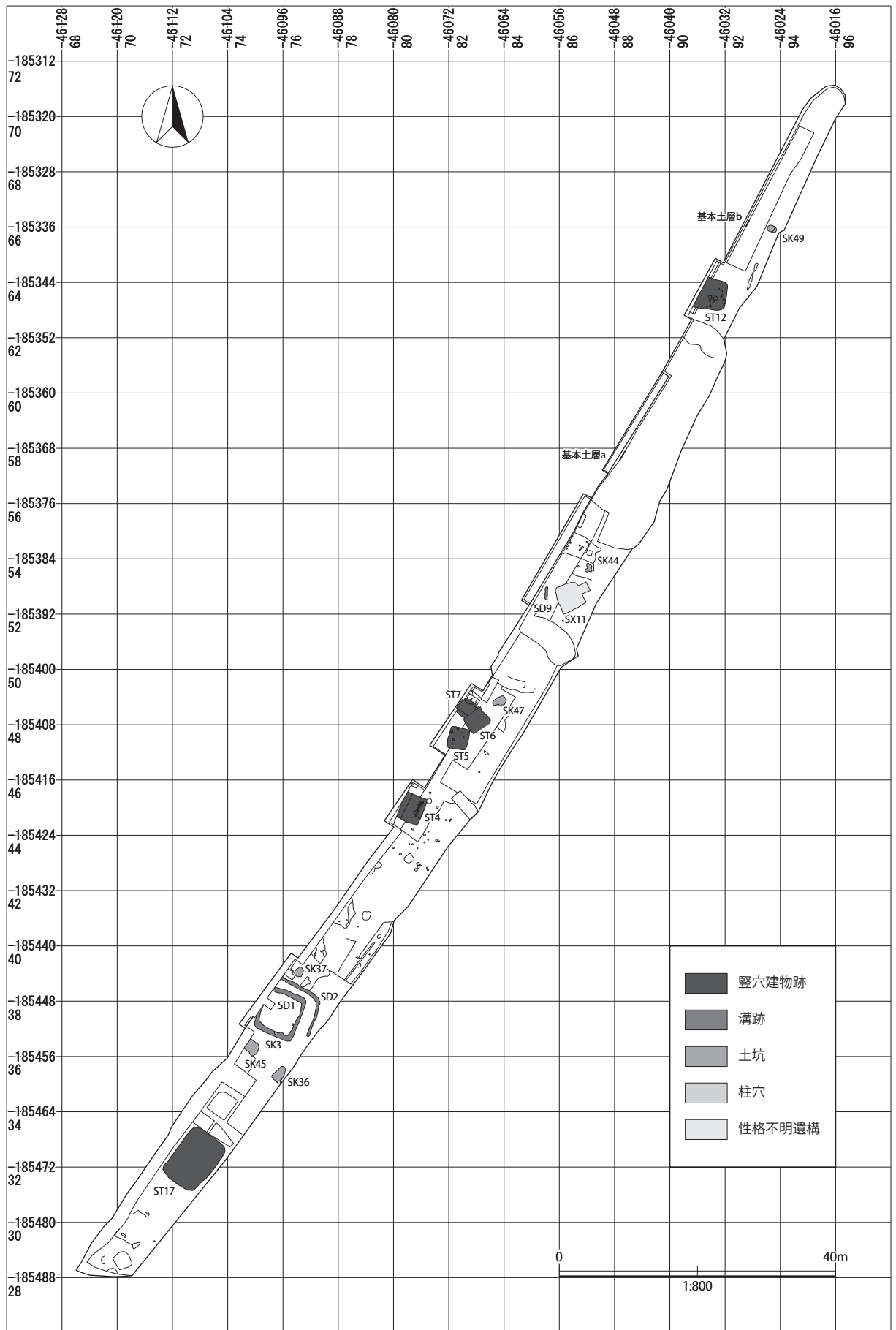
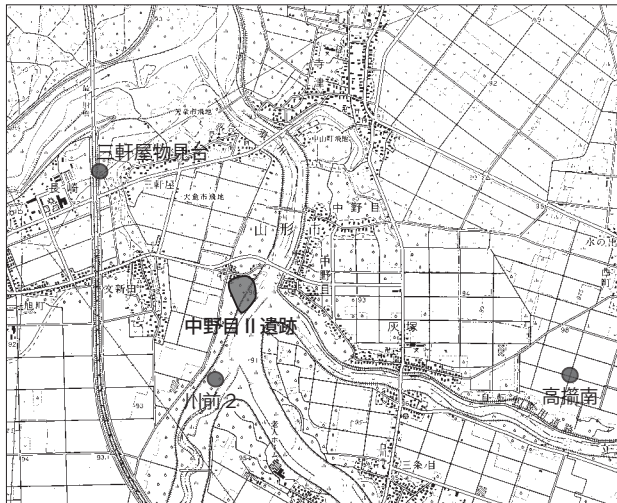


图 1 遺構配置図

なかのめ 中野目Ⅱ遺跡（第2次）

遺跡番号 201-135
調査回数 第2次
所在地 山形県山形市大字中野目
北緯・東経 38度15分19秒・140度20分01秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業 須川河川改修事業
調査面積 3800㎡
受託期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日
現地調査 平成30年5月21日～11月5日
調査担当者 天本昌希（現場責任者）・安達将行・吉田満
調査協力 山形市教育委員会・山形県村山教育事務所
遺跡種別 集落跡
時代 古墳時代・平安時代・近世
遺構 竪穴建物跡・掘立柱建物跡・溝跡・土坑・井戸跡
遺物 土師器・須恵器・金属器（文化財認定箱数：23箱）



遺跡位置図（1：50,000）

調査の概要

中野目Ⅱ遺跡は、山形市の北西部、中山町との市境近くの須川左岸の自然堤防上に立地する。今回の調査は、須川の河川改修事業に伴い実施され、調査区は、堤防内の河川縁辺 1900㎡を上・下層の2面にわたり調査した。

遺構と遺物

調査区は須川の洪水に何度も見舞われたらしく、基本土層には水性堆積を示す粘土層と砂層が縞状に堆積している様子が確認できる。現地表の標高は、93.4mほど、遺構確認面は、上層で92m前後、下層は90.8～91.8

mで、南側ほど深くなる。

基本土層は、調査区全面に鈍い黄褐色の細粒シルト層が厚く堆積し、その下は粘土質シルト層で黒褐色と黄褐色の層が数十cmほど交互に堆積を繰り返す状態が3回確認できる。黒褐色層の形成は、植物腐食等によるものと考え、地表面であったときに堆積したもの。黄褐色層は河川氾濫により運ばれてきた土が堆積したものと考えられる。よって黒褐色層を生活面、その下の黄褐色層を遺構確認面として調査している。最下層から遺構は検出されず、上の2層に限られる。

検出した遺構は、上層で竪穴建物跡1棟、土坑38基、溝状遺構8条、下層で竪穴建物跡4棟、掘立柱建物跡1棟、土坑54基、溝状遺構2条である。

竪穴建物としたST53は、上層の南部で検出したもので、カマドや炉跡などは検出されなかったが、中央に煤のつく川原石が据えられるなど、工房的な性格をうかがわせる。遺物は多くはないが、平安時代のものであろう。

ST90竪穴建物は、下層の中央部で検出した竪穴建物で、小型の隅丸方形を呈する、僅かな焼土痕跡を残すが、カマドなどは検出できない。底面から回転糸切りの須恵器環が出土しており、平安時代のものと判断できる。

ST99A竪穴建物は、下層の調査区北端で検出し、北

半部は大きな削平により失われているため調査区外となっている。竪穴中央に炉を持ち、平面形は判然としませんが、1辺4.5m程度の方形になると思われる。大量の遺物が出土しており、土師器の高坏、小型壺、甕を主体とする。口縁部を欠くものの須恵器^{はそう}甕も出土している。古墳時代中期の前葉のものと同判断できよう。

ST100 竪穴建物は、下層の調査区北側で検出している。中央に炉をもつが、被熱痕跡は弱い。周溝が巡り、1辺7.7mほどの方形を呈する。出土遺物は土師器の高坏、小型壺、甕を主体とする。先のST99Bと同じく、古墳時代中期前葉のものだろう。

ST101 竪穴建物は、下層の調査区中央の西側で検出している。中央に径40cm程度の炉が検出し、外側にテラス状の掘り込みが広がる。これらの周辺からは、多くの鉄滓^{てつさい}が出土しており、さらに覆土を水洗したところ、多数の鍛造剥片を得ることができた。また、高坏脚部を転用した羽口片も多く出土する。このような状況から、本遺構は鍛冶工房としての性格をもつ竪穴建物と考えられる。全体の規模は、東壁以外に周溝が巡り、7.8×7mほどの長方形を呈する。出土遺物はST99Aなどと同じで、古墳時代中期前葉と思われる。

SB120 掘立柱建物は、上層の中央部西側で検出している。2間2間だが南北方向に長く、柱間は東西でおよそ1.8m程度、南北で2.1m程度で規格的な印象を受ける。出土遺物は僅かだが、平安時代のものと思われる。

土坑は、強い被熱痕跡が残される浅いものが数基あるほかは、総じて掘り込みが深いものである。前者は上層のみで検出され、骨片が出土するものもある。土坑の大半を占める後者は、方形、長方形、円形のものがあり、上下両層で検出する。これらの多くは規格的な平面形で、壁面は垂直に立ち上がる。これらは現代の農業に伴う掘削痕のようにも思えるが、それを示すような痕跡や遺物は得られていない。また、調査区全体に厚く堆積する細粒シルト層の下から掘り込まれているため、この層が堆積する前に形成されたものである。これらを踏まえれば、単純に現代の攪乱として捨て置く訳にはいかないだろう。円形のものに関しては、素掘りの井戸跡の可能性がある。それ以外のものについては用途不明であり、遺物の出土も少なく、遺構に帰属するものか判断できない。須恵器片が混在していることから、上限は平安時代であ

り、それ以降のものと思われる。

溝状遺構は、調査区南側でSD60Aとした幅2m前後、断面がV字形のものを検出している。調査時の検出面は下層だが、調査区壁面で立ち上がりを確認すると、上層まで達している。調査区を東西に横断し、東端部で直角に折れ曲がる。屋敷等の区画溝のように思われるが、対辺になるものは検出しなかった。文献上にも近隣に城館の存在は知られていない。遺物は少ないが、近世のものが含まれている。

まとめ

今回の調査で検出した3棟の古墳時代の竪穴建物について、詳細は整理作業の進展によるが、発掘段階ではすべての遺構において坏が1点も確認できず、有段の高坏などが見られることから、これらの間に大きな時期差はなく、中期前葉のものと同判断している。

ST101は鍛冶工房と判断できるもので、県内においては最古の資料となる。これまで山形市の大之越^{だいのこし}古墳に副葬された鉄釘^{かなはし}だけが、県内の古墳時代中期における鍛冶技術の伝播を物語る資料であったが、今回の調査では明確な利用痕跡を示す資料を得ることができた。

平安時代の遺構については、判然としないものが多いものの、確認面から平安時代の遺物は多く出土している。底径の小さい回転糸切りの須恵器坏底部片などが多く、9世紀の中～後葉のものといえよう。

近世の遺構は、断面がV字形の溝状遺構や、大型の円形土坑があり、これらには素焼きの挿鉢片^{すりばち}や瓷器片^{しき}が含まれている。具体的な年代は、今後の整理作業に委ねられるが、近世後半以降のものであろう。

先に述べたように、黄褐色層は洪水堆積層と捉えているが、厚く堆積する場所もあれば、確認できない場所もあり、当時の微地形や洪水の方向を示しているものと思われる。遺構の検出状況と併せて調査区域の埋没状況を整理すると、最下の洪水層の下にある黒色層からは遺構が検出していないため、時期は特定できないが、この段階では無人だったと考えられる。この後、古墳時代中期前葉から利用が始まり、垂直に掘り込まれる土坑を利用して平安時代以降の時期に、もう一度洪水層が形成されている。そこから近世後半以降に、これまでのものよりもはるかに規模の大きい洪水層が形成され、現地表面となっていると解釈している。

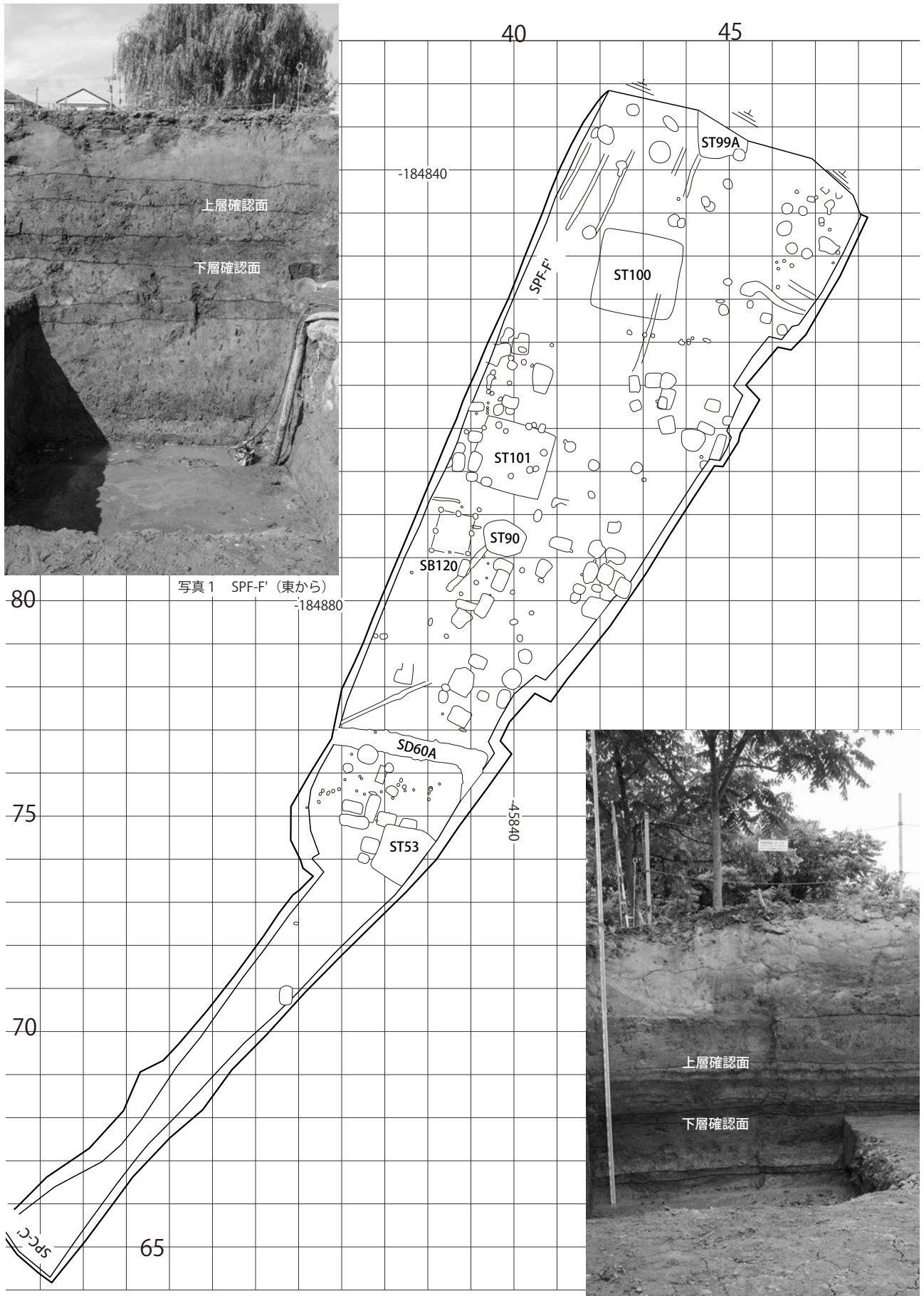


図1 遺構配置図

写真2 SPC-C' (北から)



写真3 ST99 竪穴建物（北から）



写真4 ST99 竪穴建物遺物（遺物出土状況）



写真5 ST99 竪穴建物出土遺物（有段高坏）



写真6 ST99 竪穴建物出土遺物（須恵器甕）



写真7 ST99 竪穴建物炉跡検出状況（東から）



写真8 ST100（手前）、ST99（奥）竪穴建物（南から）



写真9 ST100 竪穴建物（南東から）



写真10 ST100 竪穴建物遺物出土状況（南東から）



写真11 ST101 竪穴建物（東から）



写真12 ST101 竪穴建物炉跡検出状況（東から）

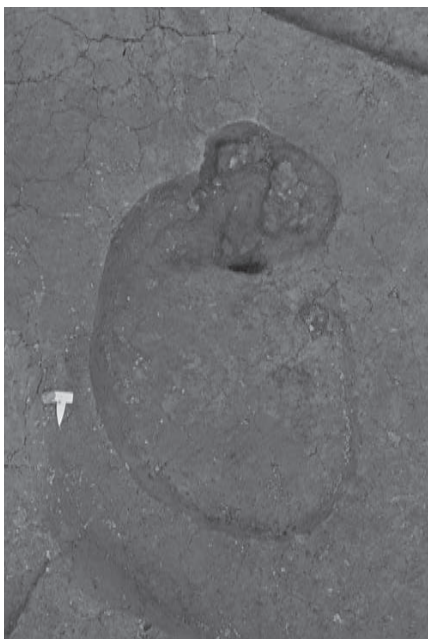


写真13 ST101 竪穴建物炉跡オルソ合成画像（南から）



写真14 ST101 竪穴建物出土転用羽口



写真15 ST101 竪穴建物出土転用羽口



写真16 ST101 竪穴建物出土鉄滓

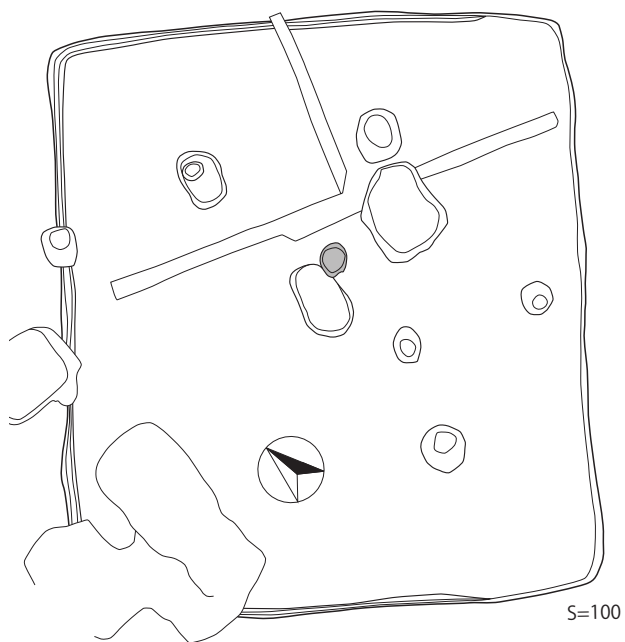


図2 ST101竪穴建物平面図（網掛け部が炉跡）

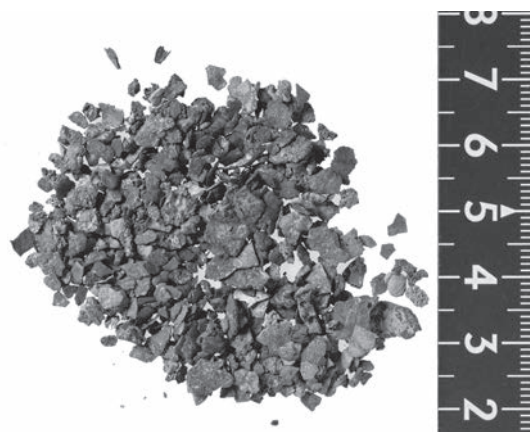


写真17 ST101 竪穴建物出土鍛造剥片



写真18 ST90 竪穴建物（東から）



写真19 SB120 掘立柱建物（西から）



写真20 ST53 竪穴建物（奥）と、規格的な土坑（SK46-52）（西から）



写真21 被熱痕跡をもつ土坑（SQ10）（西から）



写真22 円形の土坑（SK116）（西から）



写真23 SD60A 溝状遺構（東から）



写真24 洪水層からの遺物出土状況（東から）



写真25 調査区空撮（中央を流れるのが須川）（北から）

2. 普及・啓発・研究等業務

(1) 研修等

全国埋蔵文化財法人連絡協議会事業への派遣

ア 第1回役員会

期 日 平成30年5月17日～5月18日
会 場 福島県白河市（東京第一ホテル新白河）
派遣職員 調整主幹 須賀井新人

イ 総会

期 日 平成30年6月14日～6月15日
会 場 兵庫県神戸市（ホテル北野プラザ六甲荘）
派遣職員 専務理事 齋藤 稔、主任調査研究員 草野潤平

ウ ブロック活動

北海道・東北地区会議

期 日 平成30年10月18日～10月19日
会 場 岩手県盛岡市（ホテルルイズ）
派遣職員 専務理事 齋藤 稔、事務局長 黒坂雅人、

(2) 普及啓発

①センター公開事業

ア なつやすみ「子どもミュージアム」

一昨年度より、埋蔵文化財センター単独事業として実施している。

山形県内の遺跡から見つかった代表的な出土品を、児童・生徒の夏季休業中に展示した。

併せて、体験活動を取り入れて実施した。

期 間 平成30年7月23日（月）～8月17日（金）

会 場 山形県埋蔵文化財センター

内 容 展示：「昔むかしの暮らし体験!!」

体験：火起こし、縄文クッキー、弓矢、ミュージアムで絵を描こう

入場者数 45名



弓矢体験



縄文クッキー体験



火起こし体験

イ 考古学&遺跡発掘調査のお仕事参観日

平成27年度まで実施してきた「埋蔵文化財センター参観デー『埋文まつり』」であるが、復活を望む声もあり、それに代わるものとして企画した。タイトルに「参観日」とあるように普段のセンター業務の見学を中心に据え、その他遺跡紹介のパネル展示や各種体験コーナーなどを実施した。

期 日 平成30年11月11日（日）

会 場 山形県埋蔵文化財センター

内 容 パネル展示、土器・石器の接合体験、拓本体験、記念写真撮影、勾玉作り

入場者数 101名



琥珀の勾玉作り



石器の接合体験



拓本体験

ウ 平成30年度 山形県発掘調査速報会2018

山形県教育委員会主催、(公財)山形県埋蔵文化財センター他5市町教委共催で実施した。センターが平成30年度に発掘調査を行った3遺跡3件の調査成果と、山形市・寒河江市・南陽市・大江町・大石田町の各教育委員会による発掘調査成果を報告した。

期 日 平成31年3月17日(日)

会 場 山形市民会館 小ホール

内 容 調査成果の概要をプロジェクターを使って紹介した。

入場者数 約150名



②考古学講座

ア 特別講演会

職員研修として計画した講演会を一般にも開放し、「考古学講座」として実施した。

期 日 平成31年2月19日(火)

会 場 山形県埋蔵文化財センター

内 容 演題：『北アジア遊牧国家の考古学—モンゴルでの発掘調査経験を中心に—』
講師：佐川正敏氏(東北学院大学文学部教授)

参加者数 46名



イ センター談話会

センター職員による個人研究の発表会・勉強会を公開し、一般参加者とともに勉強した。

期 日 平成31年2月28日(木)・3月7日(木)・3月14日(木)

会 場 山形県埋蔵文化財センター

テーマ 第1回『山形県の災害考古学』(植松暁彦)

第2回『日本で一番有名な石槍の作り方』(大場正善)

第3回『八反遺跡の一括出土銭』(高桑 登)

参加者数 合計 のべ76名



③来所者

ア.見学・研修等

No.	来所者	期 日	人数	内 容
1	上山市立南小学校第5学年	2018年5月1日	81	施設見学、施設利用(体験学習)
2	上山市立中山小学校同窓会	2018年5月10日	12	施設見学
3	山形県立山形聾学校小学部第6学年	2018年5月17日	3	施設見学、施設利用(体験学習)
4	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	2018年5月22～24日	3	施設利用(写真撮影研修)
5	日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(B)プロジェクト	2018年6月10日	20	施設利用
6	尾花沢市文化財保護委員会	2018年6月15日	1	施設利用(赤外線による遺物の鑑定)
7	上山キャリアスタートウィーク	2018年7月3～5日	2	職場体験
8	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	2018年7月6日	2	施設利用(写真撮影研修)
9	いわき市教育委員会 教育委員	2018年7月12日	5	施設見学
10	仙台市教育委員会	2018年7月17日	1	施設見学(整理作業中の遺物閲覧)
11	上山市民	2018年7月20日	3	施設見学、施設利用(体験学習)
12	山形県立上山明新館高等学校	2018年8月8・9日	1	職場体験(センター・川前2遺跡)
13	福岡県民	2018年8月22日	1	施設見学
14	中山地区会	2018年9月30日	—	施設利用(放送設備一式)
15	中山地区会	2018年10月7日	—	施設利用(放送設備一式)
16	東北学院大学大学院 学生	2018年10月15日	1	施設見学 遺跡見学<川前2遺跡、中野目Ⅱ遺
17	山形県立博物館ボランティア	2018年11月5日	4	施設見学
18	山形市民	2018年11月6日	1	施設見学
19	寒河江市教育委員会	2019年1月28日	1	施設利用(出土遺物の鑑定)
20	中山町柳沢地区	2019年1月31日	2	施設利用(赤外線による遺物の鑑定)
21	(公財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	2019年2月14日	3	施設見学、施設利用(職員研修)
22	土偶研究会	2019年3月10日	20	施設利用
23	大江町教育委員会	2019年3月12日	1	施設利用(出土遺物の鑑定)

イ.図書閲覧

No.	来所者	期 日	閲覧目的
1	東北芸術工科大学 教員	2018年8月7日	縄文時代早期土器研究のため
2	川西町民	2018年11月14日	遺跡調査のため
3	(公財)とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター 職員	2018年12月17日	古代武器の研究のため
4	尾花沢市民	2019年2月23日	2018年の東北地方の縄文時代研究の 動向
5	尾花沢市民	2019年2月26日	縄文時代の東北地方遺跡及び論文の 参考
6	尾花沢市民	2019年3月13日	資料の検討のため
7	尾花沢市民	2019年3月15日	経塚関係の調査等
8	尾花沢市民	2019年3月19日	経塚等の研究
9	尾花沢市民	2019年3月26日	経塚等の研究

ウ.資料調査

No.	来所者	期 日	対象遺跡
1	(公財)福島市振興公社 宮畑遺跡史跡公園 職員	2018年4月27日	千野遺跡
2	京都大学大学院 教員	2018年5月2日	富山遺跡
3	天童市立旧東村山郡役所資料館 館長・職員	2018年5月15日	高嶺南遺跡、 菖蒲江 1 遺跡、菖蒲江 2 遺跡、 板橋 1 遺跡、板橋 2 遺跡
4	新潟市文化財センター	2018年5月22日	助作遺跡、矢馳 A 遺跡
5	明治大学文学部 教員	2018年9月6日	かっぱ遺跡
6	神奈川大学理学部 教員	2018年10月4日	西谷地遺跡、馳上遺跡、岩崎遺跡、 土崎遺跡、梵天塚遺跡、中谷内遺跡、 興屋川原遺跡、山形城三の丸跡、 沼田遺跡、南田遺跡、向田遺跡、 平田地区遺跡、大槻新田遺跡、 手蔵田 3 遺跡、横代遺跡、熊野田遺跡
7	東北大学大学院 教員	2018年10月16・17日	太郎水野 2 遺跡
8	東北芸術工科大学 教員	2018年11月7日	中川原 C 遺跡、原の内 A 遺跡、 山居遺跡、西海淵遺跡
9	東北芸術工科大学 学生	2018年12月14日	清水西遺跡
10	(公財)とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター 職員	2018年12月17日	三条遺跡
11	明治大学文学部 学生	2018年12月27日	かっぱ遺跡
12	土偶研究会	2019年3月10日	中川原 C 遺跡、宮ノ前遺跡

④調査説明会

No.	市町村	遺跡名	開催日	遺跡種別	参加者数
1	山形市	川前 2 遺跡	2018年10月6日	集落跡	50
2	山形市	中野目 II 遺跡		集落跡	

⑤職員派遣等

No.	依頼者名	派遣場所	派遣職員名	期日	内容
1	村山市歴史文化基本構想策定委員会	村山市役所	阿部 明彦	2018年 4月23日	第2回村山市歴史文化基本構想策定委員会
2	東アジア考古学研究所	全谷先史博物館（大韓民国）	大場 正善	2018年 4月30日 ～5月8日	漣川郡旧石器祭りでの旧石器製作実演
3	村山市歴史文化基本構想策定委員会	村山市視聴覚教育センター	阿部 明彦	2018年 5月7日	村山市歴史文化基本構想策定委員会作業部会
4	山辺町教育委員会	山辺町役場	黒坂 雅人	2018年 5月8日	山辺町文化財保護審議会
5	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	大場 正善	2018年 5月19日	主催事業「勾玉・弓矢・石器をつくろう！」講師
6	大石田町教育委員会	大石田町町民交流センター「虹のプラザ」	阿部 明彦	2018年 5月20日	駒籠橋跡発掘調査報告会
7	村山市歴史文化基本構想策定委員会	村山市役所	阿部 明彦	2018年 5月21日	村山市歴史文化基本構想策定委員会作業部会
8	鹿児島大学埋蔵文化財調査センター	明治大学駿河台キャンパス	大場 正善	2018年 5月26～28日	科学研究費補助金に基づく研究成果発表
9	舟形町教育委員会	舟形町中央公民館	齊藤 主税	2018年 5月28日	第1回舟形町文化財保護委員会
10	村山市歴史文化基本構想策定委員会	村山市農村環境改善センター	阿部 明彦	2018年 6月11日	村山市歴史文化基本構想策定委員会作業部会
11	中山町教育委員会	中山町中央公民館	伊藤 邦弘	2018年 6月18日	中山町文化財保護審議会
12	山辺町教育委員会	山辺町役場 東北歴史博物館 他	黒坂 雅人	2018年 6月21日	山辺町文化財保護審議会視察研修会
13	舟形町教育委員会	舟形町中央公民館・猿羽根橋跡・西ノ前遺跡	齊藤 主税	2018年 6月21日	平成30年度国・県指定文化財巡回指導
14	山形県教育委員会	山形県庁	植松 暁彦	2018年 6月22日	平成30年度 埋蔵文化財調整会議
15	尾花沢市教育委員会	尾花沢市文化体育施設サールナート	阿部 明彦	2018年 7月1日	山形県地域史研究協議会第44回総会・研究大会
16	村山市歴史文化基本構想策定委員会	村山市役所	阿部 明彦	2018年 7月4日	村山市歴史文化基本構想策定委員会作業部会
17	大石田町教育委員会	大石田町町民交流センター「虹のプラザ」	阿部 明彦	2018年 7月6日	平成30年度第1回大石田町駒籠橋跡調査検討委員会
18	天童市立旧東村山郡役所資料館	天童市立旧東村山郡役所資料館	水戸部秀樹	2018年 7月7日	講演『エジプトへの旅と発掘調査』
19	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	齊藤 主税 水戸部秀樹	2018年 7月8日	平成30年度特別テーマ展関連講座「押出遺跡の6次調査と山形県内の縄文時代前期後半の世界」
20	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	大場 正善	2018年 7月14日	主催事業「勾玉・弓矢・石器をつくろう！」講師

No.	依頼者名	派遣場所	派遣職員名	期日	内容
21	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	齊藤 主税 小林 圭一	2018年 7月15日	平成30年度特別テーマ展開連講座 「押出遺跡の6次調査と山形県内の縄文時代前期後半の世界」
22	村山市歴史文化基本構想策定委員会	村山市役所	阿部 明彦	2018年 7月23日	村山市歴史文化基本構想策定委員会 作業部会
23	津南町教育委員会	津南町教育委員会	菅原 哲文	2018年 7月28日	平成30年度企画展打合せ
24	舟形町教育委員会	B&G舟形海洋センター	小林 圭一	2018年 8月4日	縄文の女神まつり「記念講演」講師
25	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	大場 正善	2018年 8月10日	スクールオブジョウモン 石器づくり講師
26	山形大学附属博物館	山形大学附属博物館	小林 圭一 菅原 哲文 阿部 明彦	2018年 8月21日	結髪土偶の脚部および復元に関する調査および助言
27	文化庁文化財部記念物課	文化庁文化財部記念物課	水戸部秀樹	2018年 8月31日	平成30年度刊行予定『埋蔵文化財保護行政におけるデジタル技術の導入について』に伴う山形県埋蔵文化財センターにおけるデジタル技術の導入状況に関する事例の紹介（寄稿）
28	鹿児島大学埋蔵文化財調査センター	佐世保市教育委員会 他	大場 正善	2018年 9月2～8日	科学研究費補助金に基づく資料調査
29	大石田町教育委員会	大石田町立歴史民俗資料館	阿部 明彦	2018年 9月3日	平成30年度駒籠楯跡調査事前打合せ
30	遊佐町教育委員会	遊佐町 しらい自然館	大場 正善	2018年 9月18日	縄文食体験講座 講師
31	長井市史編纂委員会	長井市生涯学習プラザ	菅原 哲文	2018年 9月20日	平成30年度長井市史編集委員及び執筆員による拡大編集委員会
32	大石田町教育委員会	大石田町駒籠	阿部 明彦	2018年 9月26日	平成30年度駒籠楯跡調査現地打合せ
33	大石田町教育委員会	大石田町駒籠	阿部 明彦	2018年 10月1～5日	平成30年度駒籠楯跡発掘調査
34	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	齋藤 健 高桑 登	2018年 10月14日	第20期考古学セミナー 講師
35	大石田町教育委員会	大石田町駒籠	阿部 明彦	2018年 10月15～20日	平成30年度駒籠楯跡発掘調査
36	寒河江市教育委員会	寒河江市文化センター	高桑 登	2018年 10月17日	第4回慈恩寺調査検討委員会
37	大石田町教育委員会	大石田町駒籠	阿部 明彦	2018年 10月22～23日	平成30年度駒籠楯跡発掘調査
38	津南町教育委員会	津南町商工会館	菅原 哲文	2018年 10月27・28日	津南シンポジウムXIV「馬高式土器の成立・展開・終焉」報告
39	山形大学附属博物館	東北大学総合学術博物館	菅原 哲文	2018年 10月30日	結髪土偶の復元調査

No.	依頼者名	派遣場所	派遣職員名	期日	内容
40	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	大場 正善	2018年 11月3日	主催事業「勾玉・弓矢・石器をつくろう！」講師
41	鶴岡市上郷地区自治振興会	鶴岡市中山地区コミュニティセンター	須賀井新人	2018年 11月3日	上郷地区内めぐり 講師
42	明治地区文化祭実行委員会	山形市明治コミュニティセンター	天本 昌希	2018年 11月3日	中野目Ⅱ遺跡・川前2遺跡の発掘調査報告 講師
43	東京大学大学院	東京大学大学院人文社会科学系研究科・文学部	大場 正善	2018年 11月5日	特別講義 講師
44	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	伊藤 邦弘	2018年 11月13日	平成30年度第1回運営協議会
45	東根市教育委員会	東根市役所 他	阿部 明彦	2018年 11月16日	東根市文化財保護審議会現地視察
46	鹿児島大学埋蔵文化財調査センター	唐津市教育委員会 雲仙市教育委員会 他	大場 正善	2018年 11月28日 ～12月5日	科学研究費補助金に基づく資料調査
47	村山市教育委員会 村山市歴史文化基本構想策定委員会	村山市農村環境改善センター	阿部 明彦	2018年 11月30日	文化財保護審議会辞令交付 歴史文化基本構想策定委員会作業部会
48	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	伊藤 邦弘	2019年 2月6日	平成30年度第2回運営協議会
49	山形市教育委員会	山形市役所	高桑 弘美	2019年 2月7日	山形市文化財保護委員会
50	山形市南部公民館	山形市南部公民館	植松 暁彦	2019年 2月18日	主催事業「山形まるごと歴史探訪」講師
51	大石田町教育委員会	大石田町町民交流センター「虹のプラザ」	阿部 明彦	2019年 2月19日	平成30年度第2回大石田町駒籠橋跡調査検討委員会
52	米沢市教育委員会	米沢市教育委員会文化課	高桑 登	2019年 2月28日	大南遺跡出土遺物調査指導
53	舟形町教育委員会	舟形町中央公民館	齊藤 主税	2019年 3月1日	第2回舟形町文化財保護委員会
54	村山市歴史文化基本構想策定委員会	村山市役所	阿部 明彦	2019年 3月5日	村山市歴史文化基本構想策定委員会作業部会
55	東根市教育委員会	東根市役所 他	阿部 明彦	2019年 3月8日	東根市文化財保護審議会および現地視察
56	村山市歴史文化基本構想策定委員会	村山市農村環境改善センター	阿部 明彦	2019年 3月14日	第3回村山市歴史文化基本構想策定委員会総会
57	山形県教育委員会	山形市 あこや会館	高桑 弘美	2019年 3月20日	山形県文化財保護審議会
58	鹿児島大学埋蔵文化財調査センター	鹿児島大学 鹿児島県立埋蔵文化財センター	大場 正善	2019年 3月21～25日	科学研究費補助金に基づく資料調査
59	中山町教育委員会	中山町中央公民館	伊藤 邦弘	2019年 3月27日	中山町文化財保護審議会

⑥資料貸出

No	貸出先	借用目的	貸出期間	資料名	数量
1	山辺町立相模小学校	社会科学学習の資料とするため	2018年4月18日 ～5月2日	西ノ前遺跡、百刈田遺跡 高揃南遺跡	7
2	山形市立第二小学校	6年生社会科の授業の教材として	2018年5月7日 ～5月14日	西ノ前遺跡、百刈田遺跡 高揃南遺跡	7
3	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	参考資料として	2018年5月15日 ～6月9日	大壇B・C遺跡、吹浦遺跡 高瀬山遺跡、川内袋遺跡 上記各遺跡の写真資料 等	12
4	天童市立旧東村山郡役所資料館	企画展において展示するため	2018年6月1日 ～9月7日	高揃南遺跡、菖蒲江1遺跡 菖蒲江2遺跡、板橋1遺跡 板橋2遺跡、砂子田遺跡	25
5	NPO法人国際縄文学協会	国際縄文学協会発行 海外向け 縄文誌「JOMON Vol.7」に掲載 のため	2018年7月1日	押出遺跡 写真資料	2
6	(公財)仙台市市民文化事業団 仙台市富沢遺跡保存館	平成30年度夏・秋のコーナー展 示にて展示するため	2018年7月3日 ～10月31日	西海淵遺跡 及び写真資料	32 12
7	舟形町教育委員会	縄文の女神まつり及び舟形町歴 史民俗資料館展示のため	2018年8月1日 ～11月9日	西ノ前遺跡	63
8	山形県立博物館	国宝「縄文の女神」展示解説会 (8/12)にて西ノ前遺跡出土遺物 を紹介するため	2018年8月6日 ～8月14日	西ノ前遺跡	7
9	津南町教育委員会	秋季企画展『火焰土器の魅力』 の展示資料・図録として使用する ため	2018年8月20日 ～11月30日	西海淵遺跡、野新田遺跡 空沢遺跡、原の内A遺跡 及び写真資料	9 2
10	株式会社 敬文舎	小学館刊 三上義孝著『天皇は なぜ紙幣に描かれないのかー日 本史の謎30』の本文挿図として掲 載するため	2018年9月5日	亀ヶ崎城跡 写真資料等	5
11	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	第26回企画展図録『木は語る～ 古代から近世の木簡と木製品 ～』の参考資料として	2018年9月12日 ～10月4日	後田遺跡、俵田遺跡 生石2遺跡、大楯遺跡 南興野遺跡、今塚遺跡 大坪遺跡、宮ノ下遺跡 荒川2遺跡、上高田遺跡 高瀬山遺跡、服部遺跡 藤治屋敷遺跡、山田遺跡 鶴ヶ岡城跡 上記各遺跡の写真アルバム	28
12	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	第26回企画展図録『木は語る～ 古代から近世の木簡と木製品 ～』および展示パネル、チラシに 掲載するため	2018年9月15日	荒川2遺跡、今塚遺跡 後田遺跡、大楯遺跡 小田島城跡、上高田遺跡 亀ヶ崎城跡、熊野田遺跡 高瀬山遺跡、俵田遺跡 鶴ヶ岡城跡、生石2遺跡 馳上遺跡、服部遺跡 南興野遺跡、宮ノ下遺跡 山田遺跡 上記各遺跡の写真資料	232
13	村山市立図書館	村山市教委発行の冊子『霧の中 の500年』(仮題)に掲載するため	2018年10月31日	山辺条里遺構 写真資料	2
14	村山市立図書館	村山市教委発行の冊子『霧の中 の500年』(仮題)に掲載するため	2018年10月31日	蟬田遺跡 写真資料	5

No.	貸出先	借用目的	貸出期間	資料名	数量
15	東北芸術工科大学修士課程	修士論文の執筆のため	2018年12月14日	清水西遺跡 及び写真アルバム	26 8
16	山形県立博物館	国宝「縄文の女神」展示解説会 (12/23)にて西ノ前遺跡出土遺物 を紹介するため	2018年12月21日 ～12月26日	西ノ前遺跡	7
17	NPO法人国際縄文学協会	国際縄文学協会発行「縄文」30 号に資料として掲載するため	2018年12月27日	押出遺跡、月ノ木B遺跡 上記各遺跡の写真資料	52
18	株式会社 新泉社	(株)新泉社発行「シリーズ『遺跡を 学ぶ』133『押出遺跡』」の本文に 解説図版として掲載するため	2019年1月	押出遺跡、月ノ木B遺跡 上記各遺跡の写真資料	46
19	山形県立うきたむ風土記の丘考古 資料館	「第1回物流・交流の考古学的研 究集会」において検討資料とする ため	2019年2月15日 ～2月20日	吹浦遺跡、原の内遺跡 川口遺跡、宮の前遺跡 渡戸遺跡、かっぱ遺跡 高瀬山遺跡、西向遺跡 坂ノ上遺跡、川内袋遺跡	95
20	寒河江市教育委員会	『寒河江市史 環境・考古編』に 掲載するため	2019年3月31日	三条遺跡、高瀬山遺跡 富沢Ⅰ遺跡、富山遺跡 落衣長者屋敷遺跡 平野山古窯跡群 高松Ⅱ遺跡、高松Ⅲ遺跡 富山2遺跡、木の沢楯跡 上の寺遺跡、睦合楯跡 上記各遺跡の写真資料	309

⑦資料掲載許可

No	貸出先	借用目的	資料名	数量
1	NPO法人国際縄文学協会	国際縄文学協会発行 海外向け縄文誌「JOMON Vol.7」に掲載のため	押出遺跡 写真資料	2
2	村山市立図書館	村山市教委発行の冊子『霧の中の500年』（仮題）に掲載するため	山辺条里遺構 写真資料	2
3	株式会社 敬文舎	小学館刊 三上義孝著『天皇はなぜ紙幣に描かれないのかー日本史の謎30』の本文挿図として掲載するため	亀ヶ崎城跡 写真資料	5
4	村山市立図書館	村山市教委発行の冊子『霧の中の500年』（仮題）に掲載するため	蟬田遺跡 写真資料	5
5	津南町教育委員会	秋季企画展『火焰土器の魅力』の展示資料・図録として使用するため	西海淵遺跡、野新田遺跡 空沢遺跡、原の内A遺跡 各遺跡の写真資料	5
6	寒河江市教育委員会	『寒河江市史 環境・考古編』に掲載するため	三条遺跡、高瀬山遺跡 富沢Ⅰ遺跡、富山遺跡 落衣長者屋敷遺跡 平野山古窯跡群 高松Ⅱ遺跡、高松Ⅲ遺跡 富山2遺跡、木の沢楯跡 上の寺遺跡、睦合楯跡 上記各遺跡の写真資料	309
7	山形県立うきたむ風土記の丘 考古資料館	第26回企画展図録『木は語る～古代から近世の木 簡と木製品～』および展示パネル、チラシに掲載 するため	荒川2遺跡、今塚遺跡 後田遺跡、大楯遺跡 小田島城跡、上高田遺跡 亀ヶ崎城跡、熊野田遺跡 高瀬山遺跡、俵田遺跡 鶴ヶ岡城跡、生石2遺跡 馳上遺跡、服部遺跡 南興野遺跡、宮ノ下遺跡 山田遺跡 上記各遺跡の写真資料	232
8	国立歴史民俗博物館	『延喜式研究』掲載論文のPDF化によるネット 掲載のため	三条遺跡 実測図	1
9	株式会社 新泉社	(株)新泉社発行「シリーズ『遺跡を学ぶ』133『押 出遺跡』」の本文に解説図版として掲載するため	押出遺跡、月ノ木B遺跡 上記各遺跡の写真資料	46
10	NPO法人国際縄文学協会	国際縄文学協会発行「縄文」30号に資料として掲 載するため	押出遺跡、月ノ木B遺跡 上記各遺跡の写真資料	52
11	秋田魁新報社	秋田魁新報文化欄に掲載のため	小反遺跡 写真資料	3

⑧研究紀要

山形県埋蔵文化財センター『研究紀要』第11号に掲載した論文の、タイトルと執筆者は以下の通りです。

- ・東山型ナイフ形石器群の石刃は、どのように剥離されていたのか?……………大場 正善
—お仲間林遺跡、および太郎水野2遺跡出土石刃石器群の
動作連鎖の概念に基づく石器技術学分析—
- ・山形県北東部における縄文時代中期の遺跡動態……………小林 圭一
—西海淵遺跡と西ノ前遺跡を中心として—
- ・古墳時代の東北地方南部における生業について……………植松 暁彦
- ・公益財団法人山形県埋蔵文化財センターにおけるデジタル技術の利用例について……水戸部秀樹

⑨出版物

ア.調査説明会資料

書名	発行年月日
中野目Ⅱ遺跡2次・川前2遺跡5次発掘調査説明資料	2018年10月6日

イ.調査報告書

シリーズNo	書名	発行年月日
231	山形城三の丸跡 第15・17・19次発掘調査報告書	2018年7月31日
232	藤島城跡 第7次発掘調査報告書	2019年3月31日
233	八幡一遺跡 第1・2次発掘調査報告書	2019年3月31日
234	上竹野遺跡 第1・2次発掘調査報告書	2019年3月29日
235	八反遺跡 第1～3次発掘調査報告書	2019年3月31日

ウ.その他

資料名	発行年月日
平成29年度 年報	2018年5月1日
研究紀要 第11号	2019年3月29日

⑩ホームページ

主な項目と内容は以下のとおりです。

- ・発掘調査遺跡一覧 発掘調査遺跡や整理作業中の遺跡の紹介
- ・発掘調査速報 調査期間中、遺跡ごとの調査状況を毎週更新して紹介
- ・整理作業トピックス 整理作業中の遺跡から、話題を取り上げて紹介
- ・イベント情報 埋蔵文化財センター考古学講座、調査説明会、各種イベント情報の提供
- ・センター刊行物案内 調査報告書、発掘調査説明資料などの刊行物等の紹介
- ・埋文やまがた Web版広報誌「埋文やまがた」の紹介、およびバックナンバーの閲覧とダウンロード
- ・センター概要 センターの紹介や、情報公開制度に基づいた、センター情報の提供

(3) 情報処理

収蔵図書データベース 新収蔵図書1, 736冊のデータ入力実施(File Maker Pro使用)

ISSN 1341-397X

年 報

平成30年度

2019年5月1日 発行

発 行 公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター
〒999-3246
山形県上山市中山字壁屋敷5608番地
Tel 023-672-5301(代)



Yamagata Archaeology Center

当センターの記章として
いるこの図柄は、
Yamagata
Archaeology
Center
の3つの頭文字をあしらっ
たものです。特に**Y**は、国
宝「縄文の女神」をイメー
ジしています。